

春 秋 会



幹事長 奥 山 尚 一

春秋会は今年創立80周年を迎えました。それを祝って、創立80周年記念事業実行委員会の佐藤辰彦委員長の下、いくつかの企画が昨年度より周到に準備され、順次催されております。沖縄における二泊三日の記念旅行会、東京ドームを貸し切って行われた家族参加のソフトボール大会、ボウリング大会、そして創立80周年記念の式典と祝賀会を行いました。

特に、9月24日に丸の内の東京會館で開催された式典と祝賀会には、日弁とその傘下の各会派の先生方には多数出席いただき大変有り難うございました。改めて、お礼を申し上げます。

今年度の後半にかけては、合格者祝賀会と併せて公開で行われる模擬裁判、来年1月のワインコンサート、そして、名古屋での国際シンポジウムなどがあります。今後とも、よい90周年、100周年を迎えるために努力して参りたいと思います。

新 人

春秋会は、これまでも弁理士試験の口述練習会や、就職説明会、そして合格者祝賀会を実施しています。これは、他の会派とほぼ同じかもしれませんが。今年の口述練習会は浅草ビューホテルの客室を使って2日間にわたって行いました。本年度は、さらにそれらに加えて、春秋会に対する理解を受験生の段階から深めてもらえるよう、広報とセミナー活動を強化しております。具体的には弁理士の論文試験に出かけて行ってビラを配り、7月に受験生向けのセミナーを開催しました。そして、受験生に向けたメルマガも開始しました。このような活動が新人の目を春秋会、ひいては日弁や弁理士会への活動へと向けるきっかけになればと思っております。やはり経験

の浅い弁理士が弁理士会の中の会派に入って、経験豊かな先輩とふれあうことは重要だと思います。

研修と同好会の活動

本年度は、同好会をいくつか新たに作る事ができました。さらに何人かの人たちが新しい同好会を作ろうとってくれています。それから少人数でのグループ研究を行う研究部会も増強しつつあります。会員全体を対象とした研修会も開かれています。



新設立の「春秋ダイバーズ」。沖縄にて



スキー部合宿。北海道にて。

これらの研修会や同好会は、春秋会から外に向かって開いております。入会手続の有無などにとらわれず、他会派の方々や特許等の業務に何らかの関係のある人たちに広く参加してもらい、春秋会の会員には広い意見にふれる機会を作ろうという趣旨です。会派にとらわれずどんどん参加してください。お願い申し上げます。

なお、平成15年度の第40回パテント杯争奪野球大会では、春秋会野球部は準優勝で終わり、3連覇はなりませんでした。決勝戦では、三好内外国特許事務所との戦いとなり惜敗しました。日弁ボウリング大会の団体戦では、春秋会は6連覇しています。今年はどうなるでしょうか。

既存の年中行事

選挙の時期が弁理士試験の合格者の発表とかさなり、また郵便投票が採用されるにつれて選挙戦のあり方も変わっています。その中で、それぞれ大事

な役割を果たしてきた各年中行事のあり方あるいはスケジュールリングも変わりつつあります。

Eメールの積極的な利用

現在ファックス網が春秋会の主要な通信手段ですが、もうすでにほとんどの会員がEメールアドレスをもっていると判断し、通信手段をEメールに変えつつあります。スムーズにEメールに移行するのは相当の努力が必要ですが、8分どり新しいシステムができあがっています。これによって、より緊密な連絡が低コストで可能になります。

おわりに

ということで、80周年と選挙が重なり、いろいろ大変な年になってしまったと、この半年を振り返ってみても感慨深いものがありますが、あと半年あります。やっと何とかかなりそうだと思えてきました。

稲門弁理士クラブ



幹事長 西村 公芳

1. 稲門弁理士クラブとは？

稲門弁理士クラブは、早稲田大学卒業の弁理士の集まりで、早稲田大学に登録された稲門会の一つです。かつては特定大学の同窓集団であった他の会派が次々と学閥の枠を撤廃し、その門戸を広く開放しているのに対し、未だ出身大学にこだわっているところが現在の稲門弁理士クラブの最大の外形的特徴かと思います。

ちなみに、近年発表されている弁理士試験の出身校別合格者数の統計をみますと、早稲田大学出身の合格者数は一大学としては少なくないのですが、それでも全合格者数に占める割合は6%前後のようです。この6%前後の合格者の中から新規に入会して下さる方を探さなければならないという事情もあり、現在の当クラブの会員数は約180名と、他の会派に比べてかなり控えめになっています。

2. 稲門弁理士クラブの特徴

稲門弁理士クラブが同窓集団であること、そして、少人数であることは上記のとおりですが、これに伴い、あるいは伝統的気風として、私たちのクラブには以下の実質的な特徴があります。

(1) 自由気ままであること

このように書くと、他会派が自由でないような、あるいは、私たちのクラブがビシッとしていないような印象を持たれるかもしれませんが、前者についてはそもそも“弁理士＝自由人”ですし、そのようなことは一切ないと思います（後者については???です。）。これは雰囲気なのでなかなか説明しにくいのですが、例えば私のような「超」の付く若輩者が幹事長や日弁副幹事長になってしまったり、端からみれば大御所の先輩と新人会員が本当に

気軽におしゃべりできてしまったり、若手にもどんどん権限が与えられてしまったりするあたりは、稲門弁理士クラブならではの自由気ままさだと感じています。

(2) まとまりがよくフットワークが軽快なこと

稲門弁理士クラブも選挙母体であり政策集団の側面を持つ以上、日本弁理士会や日本弁理士クラブの施策その他に関して意見表明をさせていただいているのですが、組織が小さく、また、検討者の考え方がすんなりと同じ方向に揃うことが何故か多いので、そのような意見を取りまとめる際のプロセスが非常にスムーズだという特徴があります。また、組織の小ささに起因する機動性がありますので、何かを決定したときにそれを実行に移すことが比較的容易に済んでいるとも思われます。

ただ、あまり良いことばかりを列挙すると真実味に欠けるので難点も挙げますと、やはり組織の小ささに起因して、相当数の人材を確保する必要がある場合に大変苦勞しています。この点については日弁他会派の先生方に助けていただきながらやりくりしているのが現況で、改善すべきところと痛感しています。

3. 今年度の活動

弁理士の自治的組織である日本弁理士会を組織的にサポートするために、他会派同様、稲門弁理士クラブも日本弁理士会の役員や各種委員会の委員等を受け持つべく優秀な人材を輩出しています。当クラブ所属の日本弁理士会役員としては、今年度は稲木次之監事と高久浩一郎常議員が活躍し、来年度は丸島儀一副会長と中村稔常議員が活躍する予定です。

また、会員相互の親睦や情報交換、切磋琢磨等を

図るために、今年度は以下の諸活動を行っています。

(1) 旅行会

特定侵害訴訟代理業務試験や活発な選挙関連活動の合間を縫って、11月の初旬に一泊二日で長野県の上諏訪温泉を訪れました。当クラブと友好関係にある無名会の先生方にも多数ご参加いただき、最終就寝組の就寝時刻が例年よりも遅い午前4時過ぎとなる等賑やかで活発な旅行会でした。

(2) 研修会

当クラブ特別顧問の丸島儀一会員を講師として、デジタル時代の技術標準と知的財産をテーマに研修会を開催しました。企業弁理士として類い希なる実績のある丸島会員による講義は、稲門会員のみならずご参加いただいた他会派の先生方や特許庁の方々にも好評を博しました。

また、上記の旅行会では夜の宴会に先立って、当クラブ前幹事長で東京地方裁判所知的財産調査官の杉村純子会員を囲んで座談会を開きました。侵害裁判所で初の民間弁理士調査官である杉村会員により、私たちが知らない裁判所の話題が色々と提供され、参加者一同が聴き入りっぱなしの勉強会となりました。

(3) ボウリング同好会

今年度新たに設立したものとして、ボウリング同好会があります。これは、毎年12月に行われる日弁ボウリング大会に向けて頑張るという名目の下でみんなで遊ばしようという会で、1～2ヵ月に一度、品川プリンスホテルのボウリング場をホームレーンとして一流プロにボウリングの“いろは”を習っています。

まずはきれいなフォームから、ということで、スコアを伸ばすにはまだ時間がかかりそうですが、今年度の日弁ボウリング大会の稲門チームの投球フォームは期待できるかと思います。

(4) ゴルフコンペ

これも近年になかった企画だと思いますが、11月と12月に小金井カントリークラブ等においてゴルフコンペを開催する予定です。参加希望者の都合に合わせてエントリーできるように、平日コンペと週末コンペを用意しました。

(5) 六六会

いま旬な六本木六丁目で集うことをテーマに開催されたのがこの六六会で、六本木ヒルズ森タワー51階の会員制クラブで圧巻の夜景に包まれながら美酒美食を堪能しました。日頃こうしたお洒落で高級なクラブに縁遠い若手の参加者が多かったせいか、その場を去るのが名残惜しいというような雰囲気が高い、結局、参加者のほとんどが終電を逸して飲食を続け、うち何人かはマンガ喫茶で夜を明かしてピンからキリまでの暮らしを味わうという多彩な一夜を過ごしました。

(6) 日本弁理士会役員当選者祝賀会

毎年無名会と合同で開催している日本弁理士会役員定時選挙の当選者祝賀会を、今年も霞ヶ関ビルの東海大学校友会で開催する予定です。昨年は無名会から下坂スミ子会長、峯唯夫副会長が当選ということで大いに盛り上がったのですが、今年は当クラブから丸島儀一候補が副会長に当選ということで、また、中村稔候補が大掛かりな選挙運動を経て常議員に当選ということで、昨年同様の盛大な会を企画しているところです。

(7) 弁理士試験合格者祝賀会

毎年恒例の弁理士試験の合格者祝賀会を、今年もリーガロイヤルホテル東京で12月に行う予定です。この祝賀会は、早稲田大学卒業の弁理士が会派を越えて集まり開催するものですが、稲門弁理士クラブが中心になって企画・運営をしています。祝賀会では弁理士試験合格者で早稲田大学出身の方をご招待し、早稲田大学総長や法学部長、理工学部長等を来賓にお招きして、応援団やチアリーダーの先導で「都の西北」等を大合唱します。

4. おわりに

本稿の依頼を頂戴したときに、併せて昨年度のこの会派紹介を読ませていただいたのですが、5会派それぞれの個性が出ていて「なるほど」と妙な納得感を覚えました。それから、それらの名紹介文を前に何を書こうかと随分悩んだのですが、その割には気ままな拙稿になってしまいました。

ただ、この数ヵ月間、幹事長職に伴う様々な経験

をさせていただいて、その気ままな雰囲気こそが良くも悪くも稲門弁理士クラブのカラーなんだという心境に至っていることは先述のとおりです。そして、そういう意味ではこの拙稿も全く的を得ていないわけではないと考えられないでしょうか…。

ところで、今年度は日本弁理士クラブにとってその意義が問われた大きな転機の時期となり、私たちのクラブも自問自答することが非常に多くなっています。特に、今後日本弁理士会の役員制度や支部問

題がどのようなようになっていくのか、あるいは、日本弁理士クラブがどのような方向に進んでいくのかによって、私たちのクラブのあるべき姿も変わっていくと思います。

いずれにしましても、稲門弁理士クラブが時代に柔軟に対応して良きを残し悪しきを改善していくためには、当クラブの会員はもとより日弁他会派の先生方のご支援、ご指導が不可欠ですので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

南甲弁理士クラブ



幹事長 真 田 有

南甲弁理士クラブについて

南甲弁理士クラブは、昭和3年(1928年)6月に、中央大学出身者を中心として発足されたクラブで、中央大学が「南甲賀町」(現在の神田警察署付近)にあったことから、その地名に由来して「南甲弁理士クラブ」と命名されたそうです。しかし、現在は出身大学にとらわれず、広く門戸を開放しておりますので、会員の出身校も様々となっております。会員の多くは東京近郊を本拠としていますが、東海地区を始めとして東京近郊以外の地域にも多くの会員を擁しています。

南甲弁理士クラブは、日本弁理士クラブを構成する会派として、これまでも多くの弁理士会会長、弁理士会役員を日本弁理士会に送り出してきましたが、いずれの役員も日本弁理士会にあって重要な役回りを担ってこられました。その根底にあるのは、南甲の組織的な人材育成方法にあるものと思われます。歴代幹事長は、いずれも資金部長、選対委員長として2年間幹事長を補佐し、その後、幹事長に就任するというプロセスの中で、組織運営や政策を学ぶ機会を得てきました。今でこそ、幹事の負担軽減の面から幹事長に至る3年体制を2年体制に減らし、副幹事長の数も増やしましたが、筆頭副幹事長が資金部長としての役割を果たし、選対に関しても深く関わる点は変わりありません。

南甲の特色を一言で言えば、「良く遊び、良く学び」であると思います。先輩の後輩に対する面倒見が大変良く、会合の後などに盃をかたむけることもしばしばです。盃を重ねれば、先輩後輩を問わず、自由闊達な論議に花が咲き、そのような議論の中に学ぶ機会が多いのも事実です。先人には、「遊び心」を持った人が多く、この点で象徴的なものとして、南甲弁

理士クラブに脈々と続いているものが2つあります。一つは「南甲新聞」であり、もう一つは「南甲特大どら焼き」です。「南甲新聞」は、昭和52年5月に第1号が創刊され、今年で26年になりますが、南甲新聞では、南甲のイベントをおもしろおかしく記事にしており、登場人物は実在でも、実名で登場することは殆どありません。「南甲特大どら焼き」は、南甲のシンボルマーク入りの直径20cmはあるどら焼きで、始めて見る人の度肝を抜かずにおかないものです。毎年、合格者祝賀会と忘年会で配り、好評を博しております。このように、南甲弁理士クラブは、「遊び心」溢れる会員に支えられ、「良く遊び、良く学び」をモットーとして活動しております。

また、最近では、女性会員や新入会員のクラブ活動への参加も積極的にすすめております。

南甲弁理士クラブの組織

南甲弁理士クラブは、総会を最高の意思決定機関とし、会務の運営にあたる幹事会、意見聴取機関としての顧問会、会務の会計監査を行なう会計監査委員会を擁しています。本年度の幹事会は、幹事長、筆頭副幹事長以下、6名の副幹事長と10名の幹事の計18名の幹事で構成されています。幹事会には、親睦、研修、普及活動、情報、広報、政策、人事、協議、会員、東海の計10部会があり、各部会長を幹事が担当しています。幹事会では、各種行事の企画、運営、総会、例会の開催、各種人事についての決定等を行ないますが、人事については、客観性・公平性を担保するため、顧問会での意見聴取と人事部会への諮問を行なうようにしています。

本年度の活動

本年度の活動方針は、①親睦行事、研修、趣味のクラブ活動を通じてクラブのより一層の活性化を図る、②当クラブから輩出の日本弁理士会の役員と会員との間の情報交換を活発にしてクラブの意見を会務に反映させる、③クラブの魅力を外部に積極的にアピールして会員数の増大を図る、という点に力点をおいて活動しています。人事の問題については、当クラブが日本弁理士会に対していかに貢献できるかという観点から、顧問会の意見等も参考にして、慎重且つ粛々と進めています。新弁理士法のもとでの役員選挙については、これまでよりも一層組織全体としての支援体制が重要であるとの認識のもと、協議委員会を中心として体制作りを進めています。また、今年新設の情報部会により、南甲内外への情報発信、情報交換のシステム作りを進めて行きます。

また、女性会員や新入会員のクラブ活動への参加をいっそう進めて行きます。

親睦行事

「遊びの南甲」と呼ばれるだけあって親睦行事は盛んです。特に旅行会は、南甲の親睦行事の最大のイベントであり、毎年多くの会員が参加し、決して普段見せない姿で「南甲新聞」の一面を賑わします。今年も、選挙日程との関係で、例年、秋に行っていた旅行会を6月に繰り上げ、浜名湖にある舘山寺温泉で行ないました。今年は浜名湖だけあって、うなぎ三昧の旅行会でした。家族参加で楽しめる納涼会は、本年度は東京ディズニーシーのメインホテル「ホテルミラコスタ」でミッキー、ミニーのショー付きのパーティーを行ない、多数の参加がありました。ディズニー・リゾートでの宿泊オプションもあり、2日間たっぷりと、ディズニーランド、ディズニーシーを家族で楽しんだ会員もおられました。このほか、忘年会、新年会等が予定されています。



研 修

南甲弁理士クラブは、「遊び」だけでなく、「学ぶ」という点、即ち研修にも力を入れています。例年、6, 7回の研修会に加え、海外研修旅行を開催しております。通常の研修会は、南甲の会員だけでなく他会派の会員にも門戸を広く開放しております。今後も、日弁各派との連携等も図りながら、活発な研修を行なって行きます。また、本年度はソフトウェア関連発明実務に精通しておられる牛久健司先生（春秋会）をお願いして、ソフトウェア関連発明の中間実務について研修を行ない、大変な盛況ぶりでした。

また、日本弁理士クラブ主催の特定侵害訴訟代理業務試験直前研修についても当クラブの幹事が研修担当として活躍しました。

さらに、商標に関する研修や米国特許弁理士を講師として招いて米国特許実務に関する研修も予定しております。

普及活動

普及活動として、ここ何年かは、論文試験合格者に対する口述模試、赤坂プリンスホテルでの合格者祝賀会等を開催しておりますが、本年度は、合格者に対する就職相談会等の企画に加え、趣向を凝らした祝賀会を予定しております。合格者の大幅増に対して今後どのように対応していくべきかは現在検討中ですが、今回の祝賀会は一つの試行であると思っております。

広報活動

広報活動として、広報部会では、例年、年2回「南甲新聞」を発行します。このほか、選挙に関する号外版を出すこともあります。南甲の活動をまとめた「南甲」誌の発行も行ないます。また、情報部会では、南甲ホームページを通した広報活動を行なっています。

レクリエーション部の活動

レクリエーション部として、ゴルフ部、野球部、釣り部、テニス部、マージャン部、囲碁部、スキー部があり、一部休部中の部もありますが、大方は活発に活動しております。特にゴルフ部は、他クラブにも門戸を開き毎年4～5回のコンペを開催しています。釣り部も年3回程の例会を開催しています。また、スキー部では、毎年、家族同伴でスキーと温泉を楽しんでいます。



おわりに

現在、我々を取り巻く環境が目まぐるしく変化しているため、時代の流れに戸惑いを感じておられる会員の方も多いと思われます。そのような変化の時代だからこそ、方向性を見誤ることが無いように、

日本弁理士クラブを構成する他会派と共に、南甲弁理士クラブも、当クラブの特色を生かしながら、日本弁理士会の正副会長会を政策面などで強力に支えていく組織として、更なる発展を目指して行きたいと思っています。



平成15年6月28日 南甲弁理士クラブ 於 鎭山寺温泉 ホテル九重

P A 会



幹事長 本 多 一 郎

1. はじめに

P A会は、他の4会派と共に日本弁理士クラブを構成しており、弁理士会（現日本弁理士会）の役員選挙が創設された大正11年に選挙母体の一つとして設立された団体であります。設立当時に Patent Attorneys の頭文字を採って命名されました。現在ではおよそ650名の会員を擁して、会員相互の親睦、研鑽を図りつつ、日本弁理士会の会務運営に協力する等、多岐に亘り活動しています。

2. 運営形態

会の運営は幹事会によって行われています。幹事会は、幹事長、幹事長代行、副幹事長、各作業部会担当幹事、常任幹事、幹事相談役および相談役によって構成されています。また、P A会の将来を担う若手会員に幹事会の雰囲気を知ってもらうため、各作業部会の部会長にも幹事会に出席してもらっています。常設の作業部会は、人事、政策、会報、企画1、2、庶務1～3、研修、中部、協議、会計の12部会あり、これらの作業部会が幹事会との連絡をとりながら行事や研修の企画・実施、日本弁理士会の各委員会への委員推薦、政策の検討、慶弔連絡、財政管理などを行っています。

なお、当会では個々の会員の独自の詳細なデータベースに基づき、幹事会メンバーの選任や委員・役員推薦等の際には適切な人材を公平に選出するように心がけています。

3. 行事

公式的な行事としては、新年会兼総会、役員選挙当選者祝賀会、受章・褒賞者祝賀会、弁理士試

験合格者祝賀会、忘年会等があります。また、毎年開催している弁理士試験論文合格者対象の「口述練習会」では、本年度は73名もの参加がありました。

その他にも、会員同士の親睦を図るべく各種イベントを企画、開催しております。例えば、本年度は7月には納涼バスツアーと称して夕暮れのはとバスに乗り込み、品川プリンスホテルでバイキングの夕食を堪能した後、東京の新名所六本木ヒルズで、ロマンチックに夜景を楽しむという催しを実施致しました。また、9月下旬の旅行会には、ご家族にも多数参加して頂き、長野県の「上諏訪」にて講演会、ゴルフ、観光等を通じて親交を深めて参りました。ご当地は、当会の中中部会会員にも参加して頂くことができ、広く親睦を図ることができました。

4. 研修

新人研修、一般研修、外国研修の3本の柱を軸として、主に、それぞれ第一線で活躍しておられるP A会会員の方に講師をお願いし、数多くの各種研修を実施しております。例えば、新人研修は、機械、化学、電気等の分野別に演習形式にて実施しております。また、当会の特色として、会員の幅広い海外実務経験および現地代理人との交流経験などを活かして、外国人講師による海外実務研修や勉強会等も充実した内容で行なっています。

5. 同好会

当会には、ゴルフ、テニス、ボーリング、マージャン、ソフトボール、スキー、囲碁、アウトド

ア、スクーバダイビング等の各種同好会が設けられており、会員同士による親交が深められています。今後も、会員の声に耳を傾けつつ、さまざまな種類の同好会を新設し、会員間の一層の親睦を図っていければと思っております。

6. ホームページ

PA会のホームページからは、幹事会報告、同好会報告、各種イベントの告知を積極的に行っております。また、各種イベントでの様子はスナップ写真館として速やかにアップされております。是非、下記PA会ホームページへアクセスして頂ければと思います。

<http://www.pa-kai.gr.jp>



夏のイベント（六本木ヒルズツアー）

7. グリーンPA

グリーンPAとは、登録5年以内の会員の総称です。グリーンPAは、弁理士としてフレッシュな意見を持った世代が中心となっていることから、各行事への参加費の負担を軽減して積極的にPA会の色々な行事に参加してもらい、広く先輩会員の方々と交流してもらうことを目的としております。

8. おわりに

私たち弁理士は、今、申すまでもなく正に大きな変革期に直面しており、日弁各会派は今こそ結束して事に当たり、弁理士という職業がいつまでも魅力的で日本の産業の発展になくてはならないものであり続けるように、最大限の努力を払うときであります。そのような状況下において、PA会、ひいては日弁として何ができるのかということをあらためて考えつつ、本年度、一幹事長として最後まで微力を尽くす所存でおります。



スキー旅行会（尾瀬岩鞍スキーツアー）